

Ⅲ. 子どもの相談機関

1. 相談機関の既知と利用

(1) 相談機関を知っているか

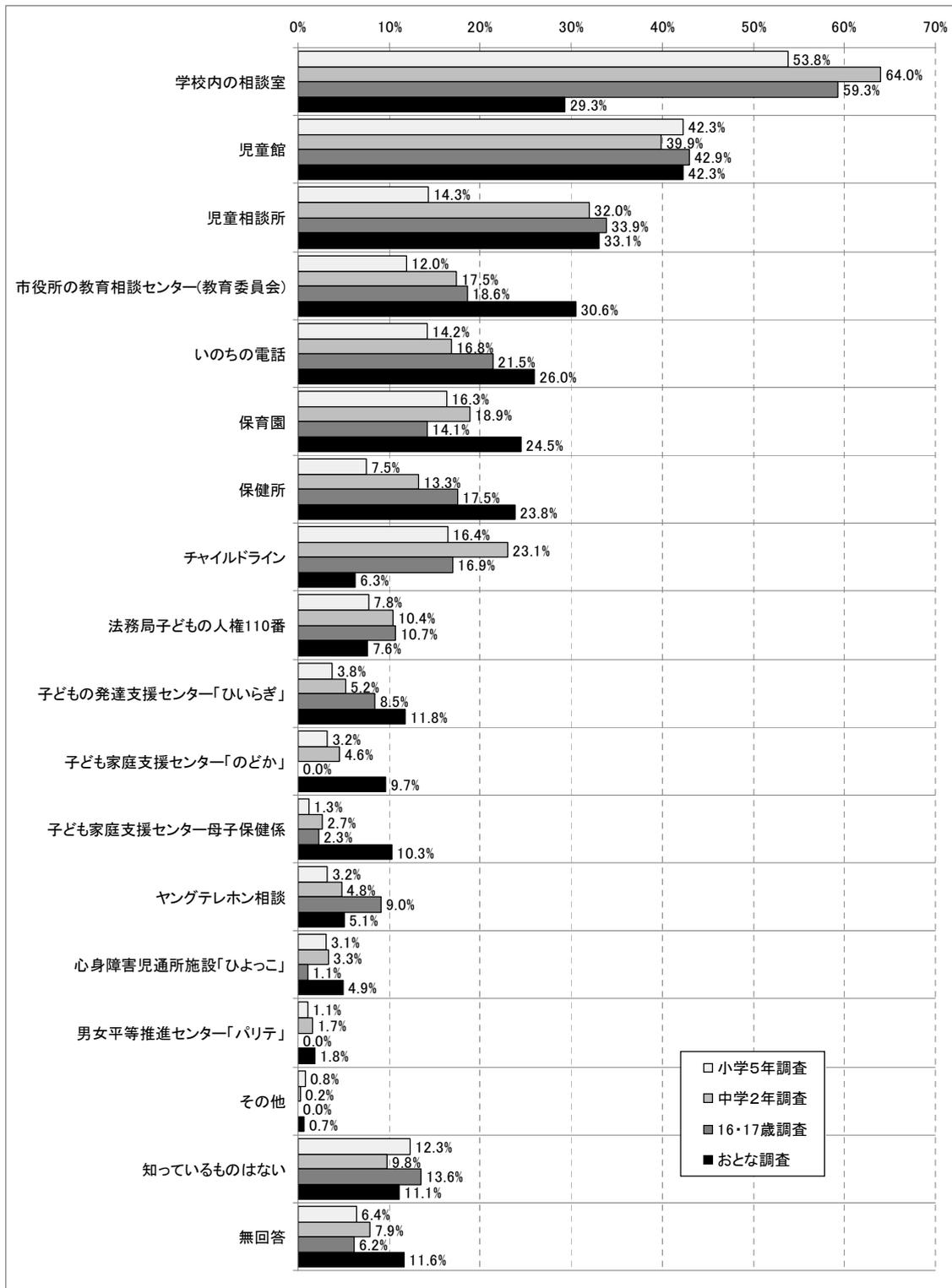
(小学5年調査(N=718)・中学2年調査(N=481)・16・17歳調査(N=177) [問8]; おとな調査(N=870) [問11])
 子どもの相談機関など(17項目)のうち、「知っているもの・利用しているもの」について複数回答で尋ねた。

ア. 相談機関を知っているか

◎ 調査票別

「子どもの相談機関を知っているか」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅲ-1-1)。

図表Ⅲ-1-1 調査票別の知っている子どもの相談機関など



『小学5年調査』における「知っている子どもの相談機関など」の上位5位は、『学校内の相談室』・『児童館』・『チャイルドライン』・『保育園』・『児童相談所』の順であり、『知っているものはない』が12.3%であった。

『中学2年調査』における「知っている子どもの相談機関など」の上位5位は、『学校内の相談室』・『児童館』・『児童相談所』・『チャイルドライン』・『保育園』の順であり、『知っているものはない』が9.8%であった。

『16・17歳調査』における「知っている子どもの相談機関など」の上位5位は、『学校内の相談室』・『児童館』・『児童相談所』・『いのちの電話』・『市役所の教育相談センター(教育委員会)』の順であり、『知っているものはない』が13.6%であった。なお、『子ども家庭支援センター「のどか」』・『男女平等推進センター「パリテ」』・『その他』が、0.0%であった。

『おとな調査』における「知っている子どもの相談機関など」の上位5位は、『児童館』・『児童相談所』・『市役所の教育相談センター(教育委員会)』・『学校内の相談室』・『いのちの電話』の順であり、『知っているものはない』が11.1%であった。

◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

「子どもの相談機関を知っているか」について尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅲ-1-1)。

『小学5年調査』における「知っている子どもの相談機関など」の上位5位は、「自分のことを好きと思う」では、『学校内の相談室』・『児童館』・『保育園；チャイルドライン』・『いのちの電話』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『学校内の相談室』・『児童館』・『児童相談所』・『いのちの電話』・『チャイルドライン』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」がほぼ同じ割合であった。

『中学2年調査』における「知っている子どもの相談機関など」の上位5位は、「自分のことを好きと思う」では、『学校内の相談室』・『児童館』・『児童相談所』・『チャイルドライン』・『いのちの電話』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『学校内の相談室』・『児童館』・『児童相談所』・『チャイルドライン』・『保育園』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」がほぼ同じ割合であった。なお、「自分のことを好きと思わない」では『その他』が、0.0%であった。

『16・17歳調査』における「知っている子どもの相談機関など」の上位5位は、「自分のことを好きと思う」では、『学校内の相談室』・『児童館』・『児童相談所』・『いのちの電話』・『市役所の教育相談センター(教育委員会)』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『学校内の相談室』・『児童館』・『児童相談所』・『保健所』・『市役所の教育相談センター(教育委員会)』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」がほぼ同じ割合であった。なお、「自分のことを好きと思う」では『心身障害児通所施設「ひよっこ」』が、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」では『子ども家庭支援センター「のどか」』・『男女平等推進センター「パリテ」』・『その他』が、0.0%であった。

図表Ⅲ-1-2 自己肯定感(自分のことが好きだ)別の知っている子どもの相談機関など

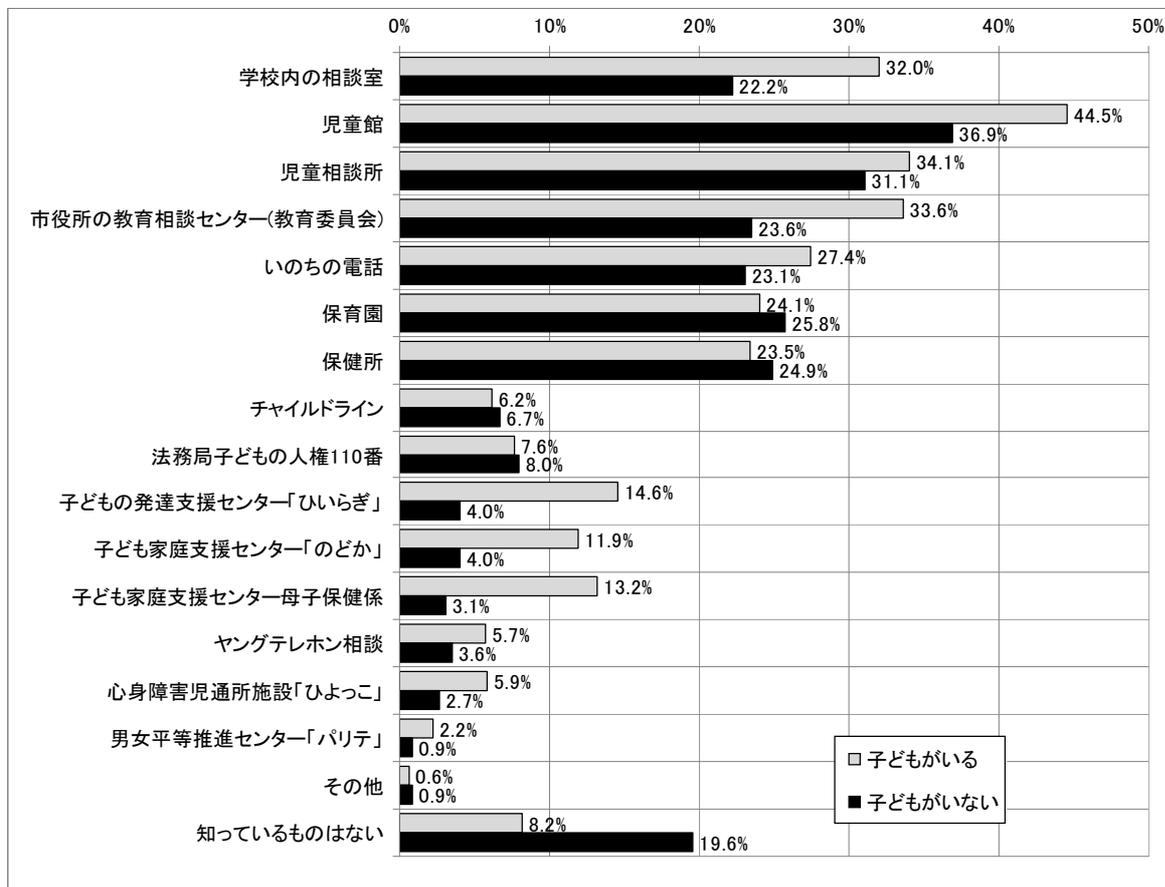
知っている相談機関など	小学5年生調査		中学2年調査		16・17歳調査		おとな調査	
	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない
学校内の相談室	①54.7%	①53.2%	①62.9%	①64.8%	①62.8%	①56.7%	④29.6%	③32.1%
児童館	②43.0%	②41.4%	②40.1%	②39.9%	②45.3%	②41.1%	①42.9%	①44.0%
児童相談所	12.7%	③17.3%	③29.9%	③32.9%	③37.2%	③31.1%	②33.4%	②35.8%
市役所の教育相談センター(教育委員会)	11.7%	13.1%	⑥19.8%	16.6%	⑤20.9%	⑤16.7%	③33.0%	> 21.6%
いのちの電話	⑤13.1%	④16.0%	⑤20.4%	15.6%	④27.9%	15.6%	⑤26.6%	⑤26.1%
保育園	③17.4%	13.5%	17.4%	⑤19.9%	14.0%	14.4%	24.1%	④28.4%
保健所	7.0%	8.9%	12.6%	13.6%	15.1%	④20.0%	24.7%	22.4%
チャイルドライン	③17.6%	⑤13.9%	④21.6%	④24.3%	17.4%	16.7%	6.3%	7.5%
法務局子どもの人権110番	7.4%	8.4%	10.2%	10.3%	12.8%	8.9%	7.9%	6.7%
子どもの発達支援センター「ひいらぎ」	2.8%	5.5%	3.6%	5.6%	8.1%	8.9%	12.3%	10.4%
子ども家庭支援センター「のどか」	2.8%	3.8%	4.8%	4.3%	0.0%	0.0%	9.7%	11.2%
子ども家庭支援センター母子保健係	0.6%	2.5%	2.4%	3.0%	2.3%	2.2%	10.5%	11.2%
ヤングテレホン相談	3.2%	3.0%	4.2%	5.0%	11.6%	6.7%	4.9%	6.7%
心身障害児通所施設「ひよっこ」	2.5%	4.2%	2.4%	4.0%	0.0%	2.2%	5.9%	0.7%
男女平等推進センター「パリテ」	1.1%	1.3%	3.0%	1.0%	0.0%	0.0%	1.8%	2.2%
知っているものはない	11.9%	13.5%	10.2%	9.6%	10.5%	16.7%	11.8%	8.2%
その他	0.8%	0.8%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.7%
総数	472	237	167	301	86	90	713	134

『おとな調査』における「知っている子どもの相談機関など」の上位5位は、「自分のことを好きと思う」では、『児童館』・『児童相談所』・『市役所の教育相談センター(教育委員会)』・『学校内の相談室』・『いのちの電話』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『児童館』・『児童相談所』・『学校内の相談室』・『保育園』・『いのちの電話』の順であった。また、『市役所の教育相談センター(教育委員会)』(思う: 33.0% > 思わない: 21.6%)では、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。

◎子どもの有無別(『おとな調査』のみ)

『おとな調査』における「知っている子どもの相談機関など」の上位5位は、「子どもがいる」では、『児童館』・『児童相談所』・『市役所の教育相談センター(教育委員会)』・『学校内の相談室』・『いのちの電話』の順であった。さらに、「子どもがいない」では、『児童館』・『児童相談所』・『保育園』・『保健所』・『市役所の教育相談センター(教育委員会)』の順であった。また、『児童館』(いる: 44.5% > いない: 36.9%)・『市役所の教育相談センター(教育委員会)』(いる: 33.6% > いない: 23.6%)・『子どもの発達支援センター「ひいらぎ」』(いる: 14.6% > いない: 4.0%)・『子ども家庭支援センター母子保健係』(いる: 13.2% > いない: 3.1%)は、「子どもがいる」が「子どもがいない」よりも高い割合であった。逆に、『知っているものはない』(いない: 19.6% > いる: 8.2%)は、「子どもがいない」が「子どもがいる」よりも高い割合であった。

図表Ⅲ-1-3 子どもの有無別の知っている子どもの相談機関など



イ. 相談機関を利用したか

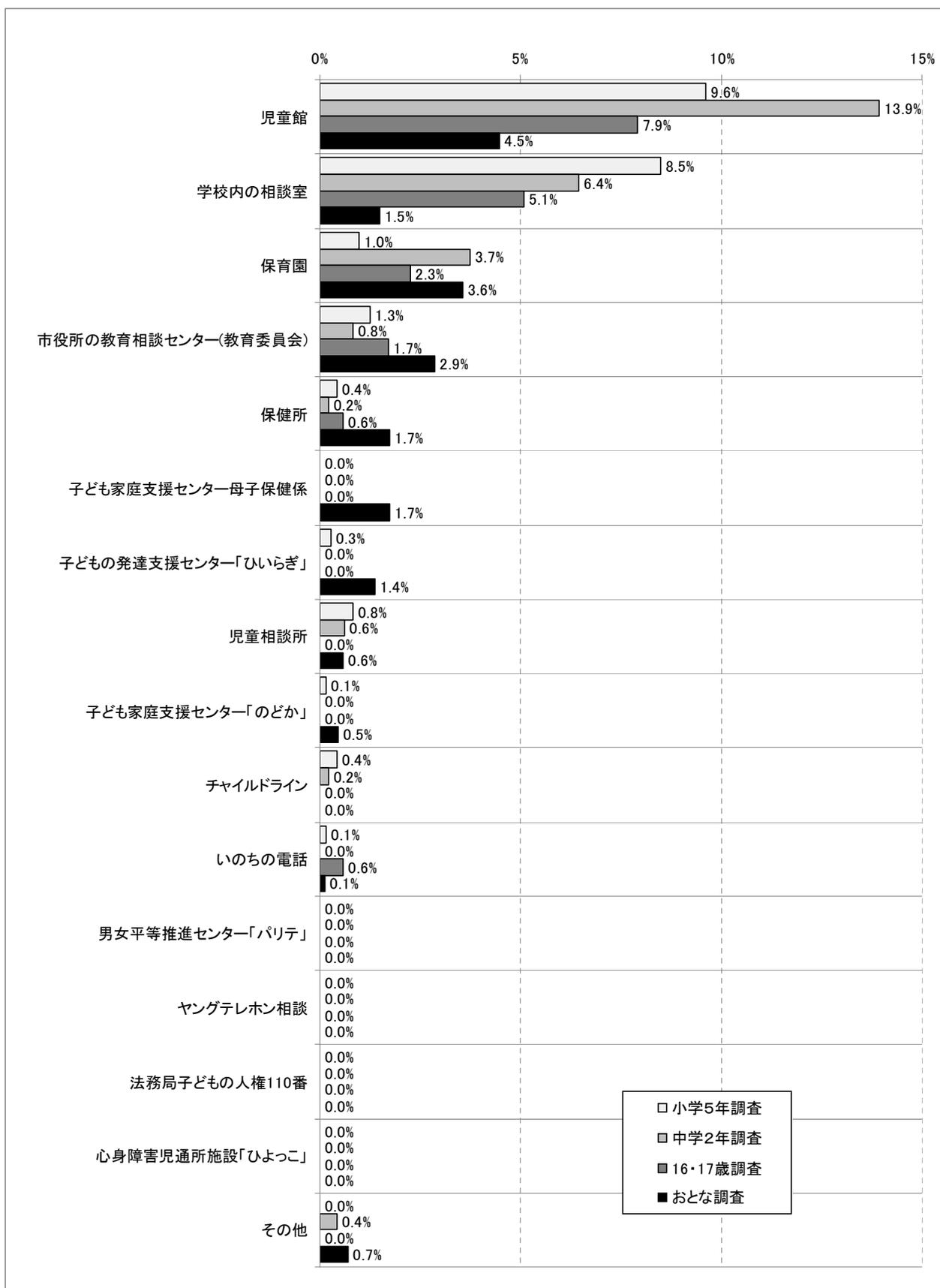
「子どもの相談機関などのうち、利用したことがあるもの」について複数回答で尋ねた。

◎調査票別

「利用したことがある子どもの相談機関など」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅲ-1-4)。

『小学5年調査』における「利用したことがある子どもの相談機関など」の上位3位は、『児童館』・『学校内の相談室』・『市役所の教育相談センター(教育委員会)』の順であり、『子ども家庭支援センター母子保健係』・『男女平等推進センター「パリテ」』・『ヤングテレホン相談』・『法務局子どもの人権110番』・『心身障害児通所施設「ひよっこ」』では利用した割合が0.0%であった。

図表Ⅲ-1-4 調査票別の利用したことがある子どもの相談機関など



『中学2年調査』における「利用したことがある子どもの相談機関など」の上位3位は、『児童館』・『学校内の相談室』・『保育園』の順であり、『子ども家庭支援センター母子保健係』・『子どもの発達支援センター「ひいらぎ」』・『子ども家庭支援センター「のどか」』・『いのちの電話』・『男女平等推進センター「パリテ」』・『ヤングテレホン相談』・『法務局子どもの人権110番』・『心身障害児通所施設「ひよっこ」』では利用した割合が0.0%であった。

『16・17歳調査』における「利用したことがある子どもの相談機関など」の上位3位は、『児童館』・『学校内の相談室』・『保育園』の順であり、『子ども家庭支援センター母子保健係』・『子どもの発達支援センター「ひいらぎ」』・『児童相談所』・『子ども家庭支援センター「のどか」』・『チャイルドライン』・『男女平等推進センター「パリテ」』・『ヤングテレホン相談』・『法務局子どもの人権110番』・『心身障害児通所施設「ひよっこ」』では利用した割合が0.0%であった。

『おとな調査』における「利用したことがある子どもの相談機関など」の上位3位は、『児童館』・『保育園』・『市役所の教育相談センター(教育委員会)』の順であり、『チャイルドライン』・『男女平等推進センター「パリテ」』・『ヤングテレホン相談』・『法務局子どもの人権110番』・『心身障害児通所施設「ひよっこ」』では利用した割合が0.0%であった。

◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

「利用したことがある子どもの相談機関など」について尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅲ-1-5)。

『小学5年調査』における「利用したことがある子どもの相談機関など」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『児童館』・『学校内の相談室』・『市役所の教育相談センター(教育委員会)』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『児童館』・『学校内の相談室』・『市役所の教育相談センター(教育委員会)』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。なお、「自分のことを好きと思う」では『子ども家庭支援センター「のどか」』が、「自分のことを好きと思わない」では『子どもの発達支援センター「ひいらぎ」』・『チャイルドライン』・『いのちの電話』が、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」では『子ども家庭支援センター母子保健係』・『心身障害児通所施設「ひよっこ」』・『男女平等推進センター「パリテ」』・『ヤングテレホン相談』・『法務局子どもの人権110番』・『その他』が、0.0%であった。

『中学2年調査』における「利用したことがある子どもの相談機関など」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『児童館』・『いのちの電話』・『学校内の相談室；保育園』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『児童館』・『学校内の相談室；いのちの電話』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。なお、「自分のことを好きと思う」では『保健所』・『チャイルドライン』が、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」では『子ども家庭支援センター母子保健係』・『子どもの発達支援センター「ひいらぎ」』・『子ども家庭支援センター「のどか」』・『心身障害児通所施設「ひよっこ」』・『男女平等推進センター「パリテ」』・『ヤングテレホン相談』・『法務局子どもの人権110番』が、0.0%であった。

図表Ⅲ-1-5 自己肯定感(自分のことが好きだ)別の利用したことがある子どもの相談機関など

利用したことがある相談機関など	小学5年生調査		中学2年調査		16・17歳調査		おとな調査	
	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない
児童館	①9.1%	①10.1%	①14.4%	①13.6%	①8.1%	①7.8%	①4.1%	①7.5%
学校内の相談室	②7.0%	②11.4%	③4.2%	②8.0%	②7.0%	③3.3%	1.5%	1.5%
保育園	0.8%	1.3%	③3.0%	4.3%	2.3%	2.2%	②3.4%	③5.2%
市役所の教育相談センター(教育委員会)	③1.1%	③1.7%	0.6%	1.0%	2.3%	1.1%	③2.4%	②6.0%
保健所	0.4%	0.4%	0.0%	0.3%	0.0%	1.1%	1.7%	2.2%
子ども家庭支援センター母子保健係	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	1.5%
子どもの発達支援センター「ひいらぎ」	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	1.5%
児童相談所	0.8%	0.8%	0.6%	0.7%	③4.7%	②6.7%	0.3%	2.2%
子ども家庭支援センター「のどか」	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	1.5%
チャイルドライン	0.6%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
いのちの電話	0.2%	0.0%	②7.8%	②8.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.7%
心身障害児通所施設「ひよっこ」	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
男女平等推進センター「パリテ」	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ヤングテレホン相談	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
法務局子どもの人権110番	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0.0%	0.0%	0.6%	0.3%	0.0%	0.0%	0.4%	2.2%
無回答	5.9%	6.3%	7.8%	8.0%	4.7%	6.7%	10.5%	9.7%
総数	472	237	167	301	86	90	713	134

『16・17歳調査』における「利用したことがある子どもの相談機関など」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『児童館』・『学校内の相談室』・『児童相談所』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思

わない」では、『児童館』・『児童相談所』・『学校内の相談室』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。なお、「自分のことを好きと思う」では『保健所』が、「自分のことを好きと思わない」では『いのちの電話』が、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」では『子ども家庭支援センター母子保健係』・『子どもの発達支援センター「ひいらぎ」』・『子ども家庭支援センター「のどか」』・『チャイルドライン』・『心身障害児通所施設「ひよっこ」』・『男女平等推進センター「パリテ」』・『ヤングテレホン相談』・『法務局子どもの人権110番』・『その他』が、0.0%であった。

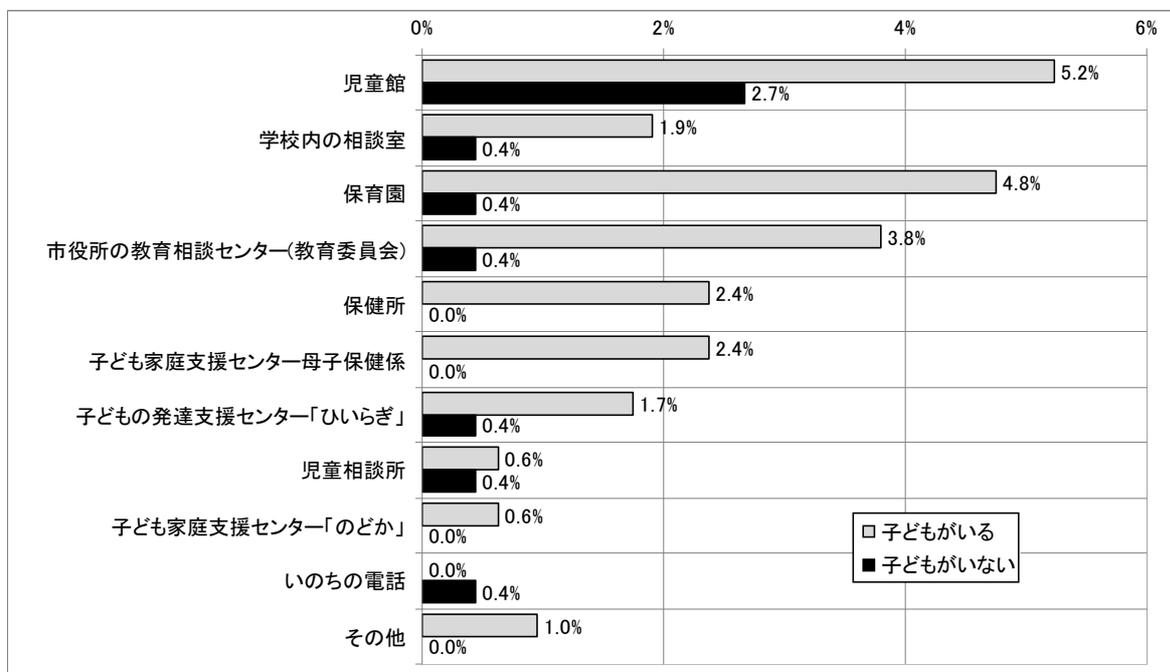
『おとな調査』における「利用したことがある子どもの相談機関など」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『児童館』・『保育園』・『市役所の教育相談センター(教育委員会)』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『児童館』・『市役所の教育相談センター(教育委員会)』・『保育園』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。なお、「自分のことを好きと思う」では『いのちの電話』が、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」では『チャイルドライン』・『心身障害児通所施設「ひよっこ」』・『男女平等推進センター「パリテ」』・『ヤングテレホン相談』・『法務局子どもの人権110番』が、0.0%であった。

◎子どもの有無別(『おとな調査』のみ)

「利用したことがある子どもの相談機関など」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅲ-1-6)。

『おとな調査』における「利用したことがある子どもの相談機関など」の上位3位は、「子どもがいる」では、『児童館』・『保育園』・『市役所の教育相談センター(教育委員会)』の順であった。さらに、「子どもがいない」では、『児童館』・『学校内の相談室；保育園；市役所の教育相談センター(教育委員会)；子どもの発達支援センター「ひいらぎ」；児童相談所；いのちの電話』の順であった。また、全ての項目で「子どもがいる」と「子どもがいない」とがほぼ同じ割合であった。なお、「自分のことを好きと思う」では『いのちの電話』が、「自分のことを好きと思わない」では『保健所』・『子ども家庭支援センター母子保健係』・『子ども家庭支援センター「のどか」』・『その他』が、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」では『チャイルドライン』・『心身障害児通所施設「ひよっこ」』・『男女平等推進センター「パリテ」』・『ヤングテレホン相談』・『法務局子どもの人権110番』が、0.0%であった。

図表Ⅲ-1-6 子どもの有無別の利用したことがある子どもの相談機関など(利用者0.0%は除く)



以上から、知っている相談機関は、『小学5年調査』では、「学校内の相談室」「児童館」「いのちの電話」「チャイルドライン」を自己肯定感の強い回答者も弱い回答者も知っているものが多く、それ以外知っている相談所として、「保育園」を自己肯定感の強い回答者、「児童相談所」を自己肯定感の弱い回答者の多くが知っていた。『中学2年調査』では、「学校内の相談室」「児童館」「児童相談所」「チャイルドライン」を自己肯定感の強い回答者も弱い回答者も知っているものが多く、それ以外知っている相談所としては、「いのちの電話」を自己肯定感の強い回答者、「保育園」を自己肯定感の弱い回答者の多くが知っていた。『16・17歳調査』では、「学校

内の相談室」「児童館」「児童相談所」「市役所の教育相談センター(教育委員会)」を自己肯定感の強い回答者も弱い回答者も知っているものが多く、それ以外の知っている相談所として、「いのちの電話」を自己肯定感の強い回答者、「保健所」を自己肯定感の弱い回答者の多くが知っていた。『おとな調査』では、「学校内の相談室」「児童館」「児童相談所」「いのちの電話」を自己肯定感の強い回答者も弱い回答者も知っているものが多く、それ以外知っている相談所として、「市役所の教育相談センター(教育委員会)」を自己肯定感の強い回答者、「保育園」を自己肯定感の弱い回答者の多くが知っていた。

さらに、利用したことがある相談機関は、『小学5年調査』では、「児童館」「学校内の相談室」「市役所の教育相談センター(教育委員会)」を自己肯定感の強い回答者も弱い回答者も利用しているものが多かった。『中学2年調査』では、「児童館」「学校内の相談室」「いのちの電話」を自己肯定感の強い回答者も弱い回答者も知っているものが多く、それ以外知っている相談所として、「保育園」を自己肯定感の強い回答者の多くが知っていた。『16・17歳調査』では、「児童館」「学校内の相談室」「児童相談所」を自己肯定感の強い回答者も弱い回答者も利用しているものが多かった。『おとな調査』では、「児童館」「学校内の相談室」「市役所の教育相談センター(教育委員会)」を自己肯定感の強い回答者も弱い回答者も利用しているものが多かった。

よって、自己肯定感の強い回答者の特徴としては、知っている相談機関は、「児童館」「学校内の相談室」など、自分の身近にある機関をよく知っており、また利用している。

(2)知っているけど利用したことがない理由

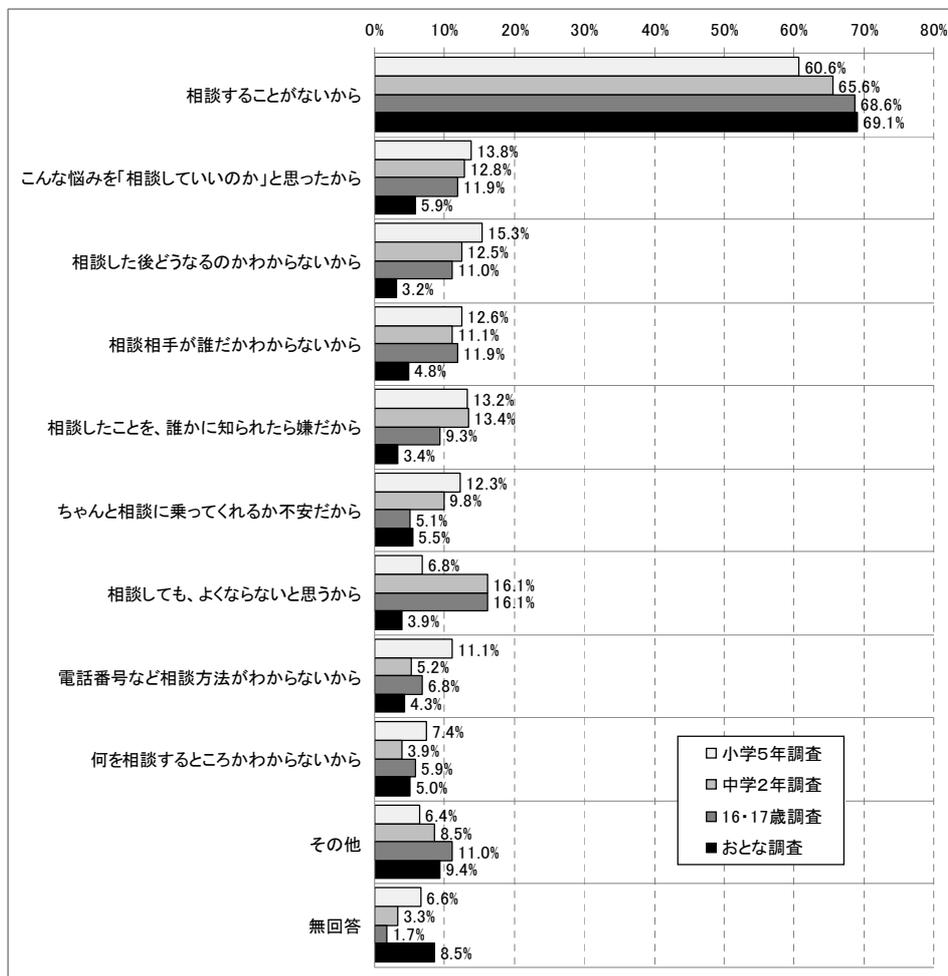
(小学5年調査(N=470)・中学2年調査(N=305)・16・17歳調査(N=118) [問8-1]；おとな調査(N=563) [問11-1])

子どもの相談機関などを知っているとは回答した対象者に、「相談を受けてくれるところを知っているけれど利用したことがないのはなぜか」(10項目)について複数回答で尋ねた。

◎調査票別

「知っている子どもの相談機関を利用しない理由」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅲ-1-7)。

図表Ⅲ-1-7 調査票別の知っている子どもの相談機関を利用しない理由



『小学5年調査』における「知っている子どもの相談機関を利用しない理由」の上位5位は、『相談することがないから』・『相談した後どうなるのかわからないから』・『こんな悩みを「相談していいのか」と思ったから』・『相談したことを、誰かに知られたら嫌だから』・『相談相手が誰だかわからないから』の順であった。

『中学2年調査』における「知っている子どもの相談機関を利用しない理由」の上位5位は、『相談することがないから』・『相談しても、よくならないと思うから』・『相談したことを、誰かに知られたら嫌だから』・『こんな悩みを「相談していいのか」と思ったから』・『相談した後どうなるのかわからないから』の順であった。

『16・17歳調査』における「知っている子どもの相談機関を利用しない理由」の上位5位は、『相談することがないから』・『相談しても、よくならないと思うから』・『こんな悩みを「相談していいのか」と思ったから；相談相手が誰だかわからないから』・『相談した後どうなるのかわからないから；その他』の順であった。

『おとな調査』における「知っている子どもの相談機関を利用しない理由」の上位5位は、『相談することがないから』・『その他』・『こんな悩みを「相談していいのか」と思ったから』・『ちゃんと相談に乗ってくれるか不安だから』・『何を相談するところかわからないから』の順であった。

◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

「知っている子どもの相談機関を利用しない理由」について尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅲ-1-8)。

『小学5年調査』における「知っている子どもの相談機関を利用しない理由」の上位5位は、「自分のことを好きと思う」では、『相談することがないから』・『相談した後どうなるのかわからないから』・『こんな悩みを「相談していいのか」と思ったから』・『相談相手が誰だかわからないから；相談したことを、誰かに知られたら嫌だから』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『相談することがないから』・『相談した後どうなるのかわからないから』・『ちゃんと相談に乗ってくれるか不安だから』・『こんな悩みを「相談していいのか」と思ったから；相談したことを、誰かに知られたら嫌だから』の順であった。また、『相談することがないから』(思う:65.7%>思わない:50.7%)では、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。

『中学2年調査』における「知っている子どもの相談機関を利用しない理由」の上位5位は、「自分のことを好きと思う」では、『相談することがないから』・『相談相手が誰だかわからないから』・『こんな悩みを「相談していいのか」と思ったから；相談した後どうなるのかわからないから』・『相談したことを、誰かに知られたら嫌だから』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『相談することがないから』・『相談しても、よくならないと思うから』・『相談したことを、誰かに知られたら嫌だから』・『こんな悩みを「相談していいのか」と思ったから』・『相談した後どうなるのかわからないから』の順であった。また、『相談しても、よくならないと思うから』(思わない:20.3%>思う:8.3%)は、「自分のことを好きと思わない」が「自分のことを好きと思う」よりも割合が高かった。

『16・17歳調査』における「知っている子どもの相談機関を利用しない理由」の上位5位は、「自分のことを好きと思う」では、『相談することがないから』・『こんな悩みを「相談していいのか」と思ったから；相談した後どうなるのかわからないから；相談しても、よくならないと思うから；その他』・『相談相手が誰だかわからないから；相談したことを、誰かに知られたら嫌だから；』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『相談することがないから』・『相談しても、よくならないと思うから』・『相談相手が誰だかわからないから』・『こんな悩みを「相談していいのか」と思ったから』・『その他』の順であった。また、『相談することがないから』(思う:80.0%>思わない:56.9%)では、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。逆に、『相談しても、よくならないと思うから』(思わない:24.1%>思う:8.3%)は、「自分のことを好きと思わない」が「自分のことを好きと思う」よりも割合が高かった。

図表Ⅲ-1-8 自己肯定感(自分のことが好きだ)別の知っている子どもの相談機関を利用しない理由

	小5		中2		16・17歳		おとな	
	思う	思わない	思う	思わない	思う	思わない	思う	思わない
相談することがないから	①65.7% >	①50.7%	①68.5%	①63.6%	①80.0% >	①56.9%	①70.9%	①64.7%
こんな悩みを「相談していいのか」と思ったから	③12.6%	④15.5%	③12.0%	④13.4%	②10.0%	④13.8%	④ 5.3%	② 9.4%
相談した後どうなるのかわからないから	②13.2%	②20.3%	③12.0%	⑤12.8%	②10.0%	12.1%	3.0%	4.7%
相談相手が誰だかわからないから	④12.3%	13.5%	②14.8%	9.1%	④8.3%	③15.5%	4.7%	④ 5.9%
相談したことを、誰かに知られたら嫌だから	④12.3%	④15.5%	⑤11.1%	③15.5%	④8.3%	10.3%	3.4%	3.5%
ちゃんと相談に乗ってくれるか不安だから	10.1%	③16.9%	6.5%	12.3%	3.3%	6.9%	③ 5.5%	④ 5.9%
相談しても、よくならないと思うから	5.3%	10.1%	8.3% <	②20.3%	④8.3% <	②24.1%	3.8%	4.7%
電話番号など相談方法がわからないから	10.4%	12.2%	8.3%	3.2%	3.3%	10.3%	4.5%	3.5%
何を相談するところかわからないから	7.9%	6.8%	6.5%	2.1%	3.3%	8.6%	⑤ 4.9%	4.7%
その他	6.6%	6.1%	6.5%	9.6%	④8.3%	⑤13.8%	② 9.4%	② 9.4%
総数	318	148	108	187	60	58	470	85

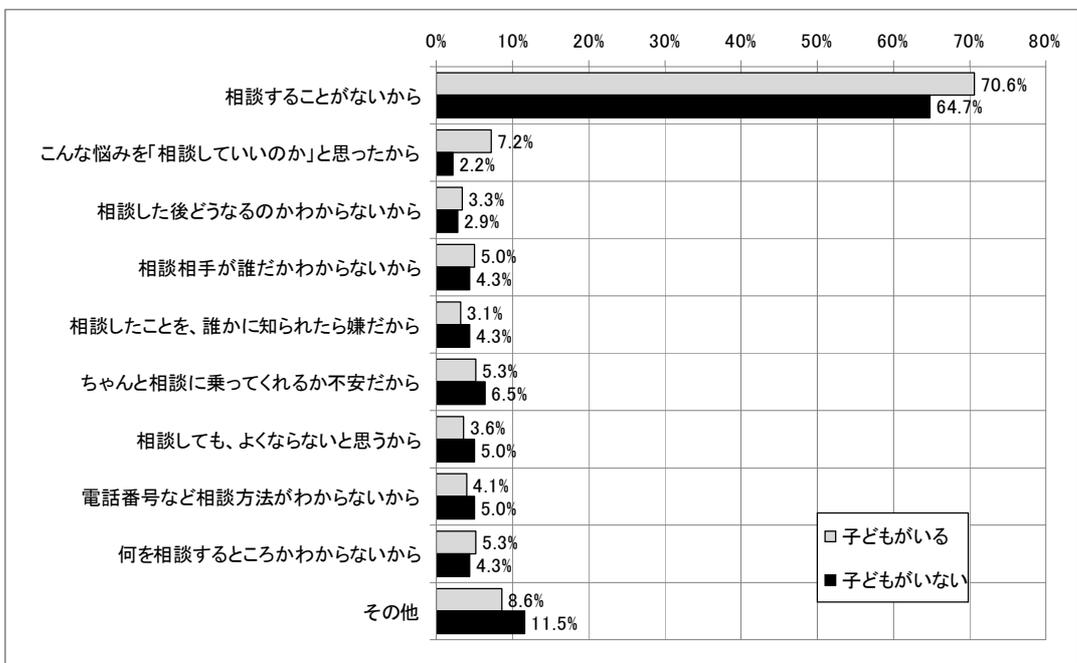
『おとな調査』における「知っている子どもの相談機関を利用しない理由」の上位5位は、「自分のことを好きと思う」では、『相談することがないから』・『その他』・『ちゃんと相談に乗ってくれるか不安だから』・『こんな悩みを「相談していいのかわからないか」と思ったから』・『何を相談するところかわからないから』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『相談することがないから』・『こんな悩みを「相談していいのかわからないか」と思ったから』・『その他』・『相談相手が誰だかわからないから』・『ちゃんと相談に乗ってくれるか不安だから』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。

◎子どもの有無別(『おとな調査』のみ)

「知っている子どもの相談機関を利用しない理由」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅲ-1-9)。

『おとな調査』における「知っている子どもの相談機関を利用しない理由」の上位5位は、「子どもがいる」では、『相談することがないから』・『その他』・『こんな悩みを「相談していいのかわからないか」と思ったから』・『ちゃんと相談に乗ってくれるか不安だから』・『何を相談するところかわからないから』の順であった。さらに、「子どもがいない」では、『相談することがないから』・『その他』・『ちゃんと相談に乗ってくれるか不安だから』・『相談しても、よくなると思うから』・『電話番号など相談方法がわからないから』の順であった。また、全ての項目で「子どもがいる」と「子どもがいない」とがほぼ同じ割合であった。

図表Ⅲ-1-9 子どもの有無別の知っている子どもの相談機関を利用しない理由



以上から、自己肯定感の強い回答者が知っているけど利用したことがない理由は、『小学5年調査』・『中学2年調査』では、「相談することがないから」「こんな悩みを『相談していいのかわからないか』と思ったから」「相談した後どうなるのかわからないから」「相談相手が誰だかわからないから」「相談したことを、誰かに知られたら嫌だから」をあげているものが多く、自己肯定感の弱い回答者も同じ傾向であり、それ以外の理由は、『小学5年調査』では、「ちゃんと相談に乗ってくれるか不安だから」を自己肯定感の強い回答者の多くが理由にあげ、『中学2年調査』では、「ちゃんと相談に乗ってくれるか不安だから」を自己肯定感の弱い回答者の多くが理由にあげていた。『中学2年調査』では、「相談することがないから」「こんな悩みを「相談していいのかわからないか」と思ったから」「相談した後どうなるのかわからないから」「相談したことを、誰かに知られたら嫌だから」をあげているものが多く、自己肯定感の弱い回答者も同じ傾向であり、それ以外の理由は、「相談相手が誰だかわからないから」を自己肯定感の強い回答者の多くが理由にあげ、「相談しても、よくなると思うから」を自己肯定感の弱い回答者の多くが理由にあげていた。『16・17歳調査』では、「相談することがないから」「こんな悩みを「相談していいのかわからないか」と思ったから」「相談相手が誰だかわからないから」「相談しても、よくなると思うから」「その他」をあげているものが多く、自己肯定感の弱い回答者も同じ傾向であり、それ以外の理由は、「相談した後どうなるのかわからないから」「相談したことを、誰かに知られたら嫌だから」「ちゃんと相談に乗ってくれるか不安だから」を自己肯定感の強い回答者の多くが理由にあげていた。『おとな調査』では、「相談することがないから」「こんな悩みを「相談していいのかわからないか」と思ったから」「ちゃんと相談に乗ってくれるか不安だから」「そ

の他」をあげているものが多く、自己肯定感の弱い回答者も同じ傾向であり、それ以外の理由は、「何を相談するところかわからないから」を自己肯定感の強い回答者の多くが理由にあげ、「相談相手が誰だかわからないから」を自己肯定感の弱い回答者の多くが理由にあげていた。

よって、自己肯定感の強い回答者の特徴としては、相談することがないから相談しないものが多いが、相談する事柄があっても、こんな悩みを「相談していいのか」と思ったからという相談へ行きにくい理由とこんな悩みを「相談していいのか」と思ったからなどという相談後の秘密の保持などに不安を抱いてる傾向がある。

(3)相談を受けてくれるところを利用したきっかけ(おとな調査 [問11-2])

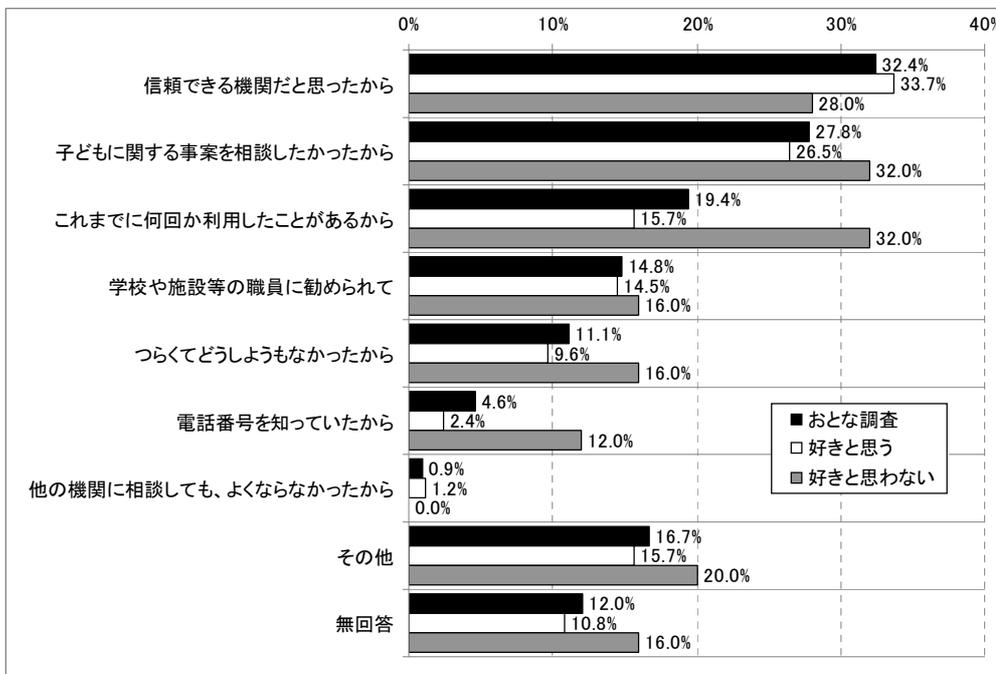
「相談を受けてくれるところを利用したきっかけ」(8項目)について複数回答で尋ねた。

◎調査票別

「相談を受けてくれるところを利用したきっかけ」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅲ-1-10)。

『おとな調査』における「相談を受けてくれるところを利用したきっかけ」の上位3位は、『信頼できる機関だと思ったから』・『子どもに関する事案を相談したかったから』・『これまでに何回か利用したことがあるから』の順であった。

Ⅲ-1-10 調査票別・自己肯定感(自分のことが好きだ)別の相談を受けてくれるところを利用したきっかけ



◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

「相談を受けてくれるところを利用したきっかけ」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅲ-1-10)。

『おとな調査』における「相談を受けてくれるところを利用したきっかけ」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『信頼できる機関だと思ったから』・『子どもに関する事案を相談したかったから』・『これまでに何回か利用したことがあるから』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『子どもに関する事案を相談したかったから』・『これまでに何回か利用したことがあるから』・『信頼できる機関だと思ったから』の順であった。また、『これまでに何回か利用したことがあるから』(思わない:32.0%>思う:15.7%)は、「自分のことを好きと思わない」が「自分のことを好きと思う」よりも割合が高かった。なお、「自分のことを好きと思わない」では『他の機関に相談しても、よくならなかったから』が、0.0%であった。

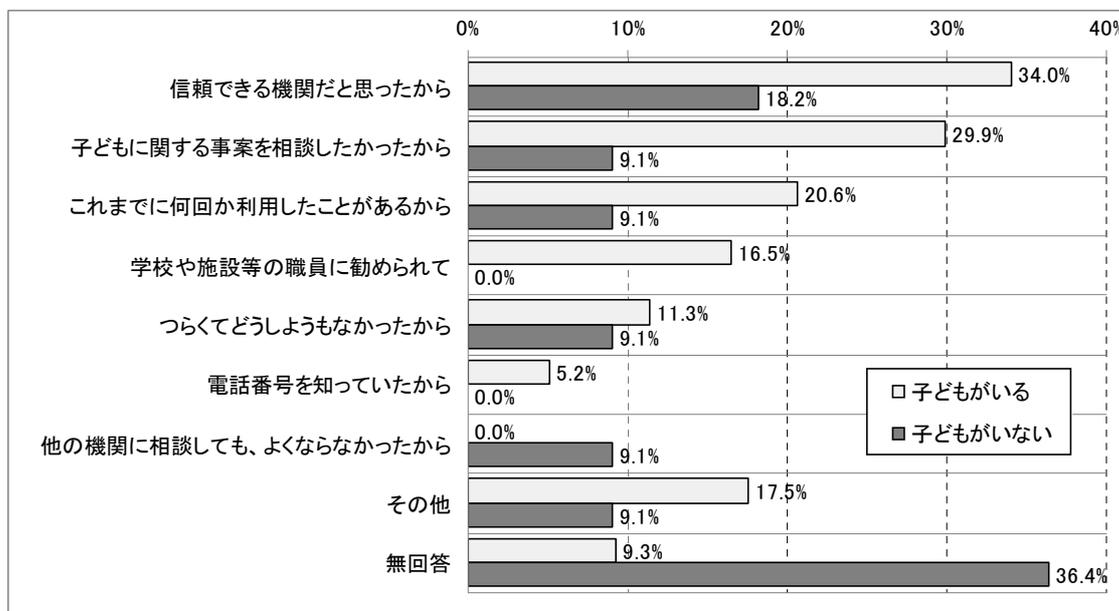
◎子どもの有無別(『おとな調査』のみ)

「相談を受けてくれるところを利用したきっかけ」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅲ-1-11)。

『おとな調査』における「相談を受けてくれるところを利用したきっかけ」の上位3位は、「子どもが

いる」では、『信頼できる機関だと思ったから』・『子どもに関する事案を相談したかったから』・『これまでに何回か利用したことがあるから』の順であった。さらに、「子どもがいない」では、『信頼できる機関だと思ったから』・『子どもに関する事案を相談したかったから；これまでに何回か利用したことがあるから；つらくてどうしようもなかったから；他の機関に相談しても、よくならなかったから；その他』の順であった。また、『信頼できる機関だと思ったから』（いる：34.0%>いない：18.2%）・『子どもに関する事案を相談したかったから』（いる：29.9%>いない：9.1%）・『これまでに何回か利用したことがあるから』（いる：20.6%>いない：9.1%）・『学校や施設等の職員に勧められて』（いる：16.5%>いない：0.0%）は、「子どもがいる」が「子どもがいない」よりも高い割合であった。

Ⅲ-1-11 子どもの有無別の相談を受けてくれるところを利用したきっかけ



以上から、自己肯定感の強い回答者が相談を受けてくれるところを利用したきっかけとしては、「信頼できる機関だと思ったから」「子どもに関する事案を相談したかったから」「これまでに何回か利用したことがあるから」が多く、自己肯定感の弱い回答者も同様な傾向であった。

よって、自己肯定感の強い回答者の特徴としては、信頼でき、何回か利用したことがあるからなどがきっかけとなっている。

これらから、自己肯定感の強い回答者の特徴としては、知っている相談機関は、児童館や学校内の相談室などの身近な機関をよく知っており、また利用しているが、利用しないのは理由は、相談することがないから相談しないと当然の理由から、こんな悩みを相談していいのかわ、ちゃんと相談に乗ってくれるか不安など、から利用しておらず、逆に相談をするものは、信頼でき、何回か利用したことがあるからなどがきっかけとなっている。

2. 相談しようと思う相談窓口

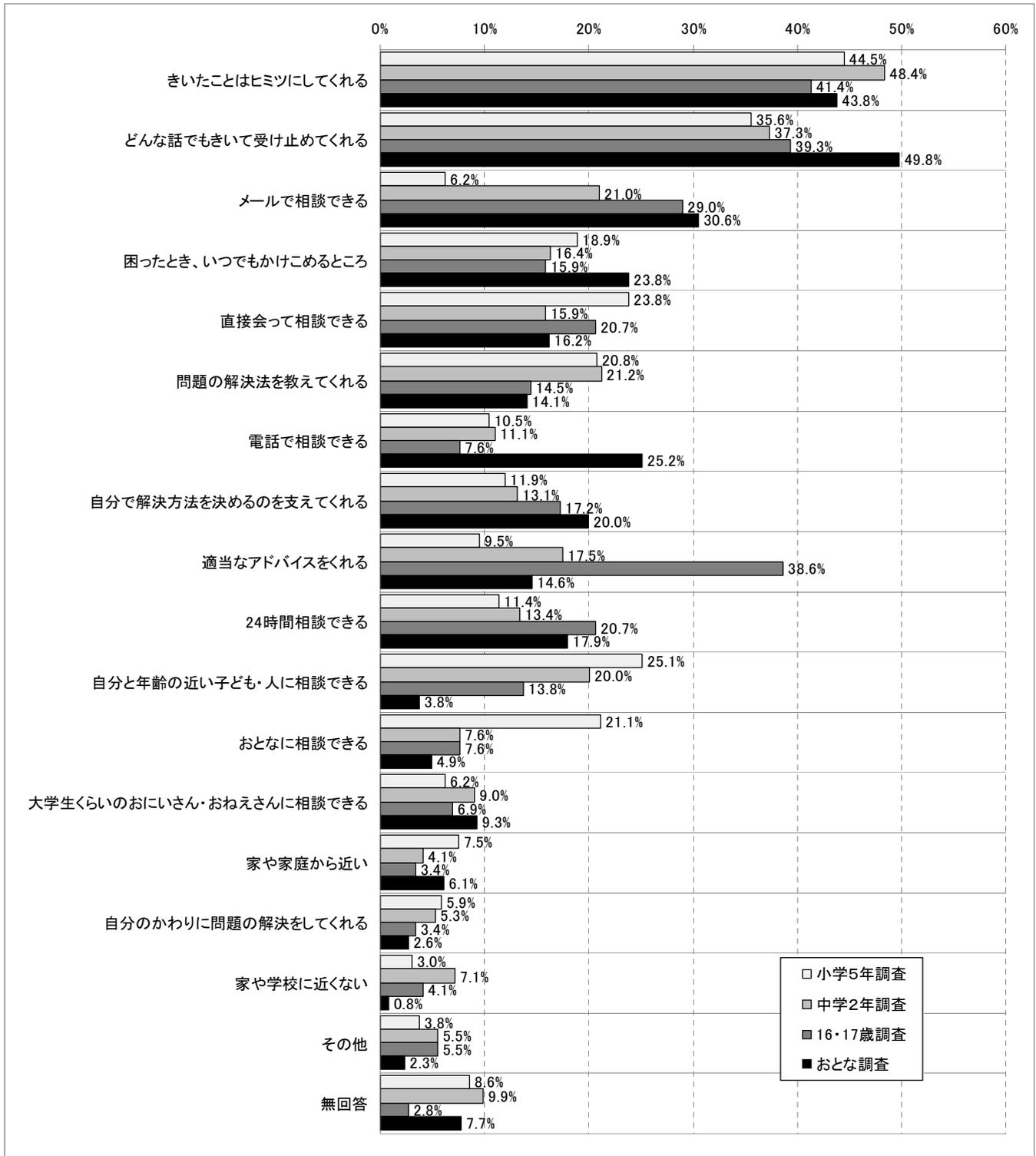
(小学5年調査(N=629)・中学2年調査(N=434)・16・17歳調査(N=145) [問9] ; おとな調査(N=870) [問12])

「どのようなところだったら、相談しようと思うか」(小学5年調査・中学2年調査・16・17歳調査)(17項目)、「子ども自身が、自分から相談すると思う相談窓口は」(おとな調査)(17項目)について、3つまでの回答で尋ねた。

◎調査票別

「どのようなところだったら、相談しようと思うか」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅲ-2-1)。

図表Ⅲ-2-1 調査票別のどのようなところだったら相談しようと思うか



『小学5年調査』における「相談しようと思う相談窓口」の上位5位は、『きいたことはヒミツにしてくれる』・『どんな話でもきいて受け止めてくれる』・『自分と年齢の近い子ども・人に相談できる』・『直接会って相談できる』・『おとなに相談できる』の順であった。

『中学2年調査』における「相談しようと思う相談窓口」の上位5位は、『きいたことはヒミツにしてくれる』・『どんな話でもきいて受け止めてくれる』・『問題の解決法を教えてくれる』・『メールで相談できる』・『自分と年齢の近い子ども・人に相談できる』の順であった。

『16・17歳調査』における「相談しようと思う相談窓口」の上位5位は、『きいたことはヒミツにしてくれる』・『どんな話でもきいて受け止めてくれる』・『適切なアドバイスをくれる』・『メールで相談できる』・『直接会って相談できる；24時間相談できる』の順であった。

『おとな調査』における「子ども自身が自分から相談すると思う相談窓口」の上位5位は、『どんな話でもきいて受け止めてくれる』・『きいたことはヒミツにしてくれる』・『メールで相談できる』・『電話で相談できる』・『困ったとき、いつでもかけこめるところ』の順であった。

◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

「どのようなところだったら、相談しようと思うか」について尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅲ-2-2)。

『小学5年調査』における「相談しようと思う相談窓口」の上位5位は、「自分のことを好きと思う」では、『きいたことはヒミツにしてくれる』・『どんな話でもきいて受け止めてくれる』・『自分と年齢の近い子ども・人に相談できる』・『おとなに相談できる』・『直接会って相談できる』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『きいたことはヒミツにしてくれる』・『どんな話でもきいて受け止めてくれる』・『自分と年齢の近い子ども・人に相談できる』・『直接会って相談できる』・『問題の解決法を教えてくれる』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。

『中学2年調査』における「相談しようと思う相談窓口」の上位5位は、「自分のことを好きと思う」では、『きいたことはヒミツにしてくれる』・『どんな話でもきいて受け止めてくれる』・『メールで相談できる』・『問題の解決法を教えてくれる』・『自分と年齢の近い子ども・人に相談できる』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『きいたことはヒミツにしてくれる』・『どんな話でもきいて受け止めてくれる』・『メールで相談できる』・『自分と年齢の近い子ども・人に相談できる』・『メールで相談できる；適切なアドバイスをくれる』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。

図表Ⅲ-2-2 自己肯定感(自分のことが好きだ)別のどのようなところだったら相談しようと思うか

知っている相談機関など	小学5年生調査		中学2年調査		16・17歳調査		おとな調査	
	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない
きいたことはヒミツにしてくれる	①44.8%	①43.9%	①44.0%	①51.1%	①39.2%	①43.7%	②44.6%	②44.0%
どんな話でもきいて受け止めてくれる	②35.9%	②35.6%	②33.3%	②40.4%	①39.2%	③39.4%	①50.2%	①52.2%
メールで相談できる	6.0%	6.3%	③23.3%	⑤18.8%	④31.1%	④26.8%	③31.0%	③33.6%
困ったとき、いつでもかけこめるところ	20.5%	16.6%	16.0%	15.8%	16.2%	15.5%	⑤23.6%	④28.4%
直接会って相談できる	⑤21.9%	④27.8%	16.7%	15.1%	20.3%	⑤21.1%	16.1%	16.4%
問題の解決法を教えてくれる	20.5%	⑤22.0%	④22.0%	③21.3%	9.5%	19.7%	14.9%	11.9%
電話で相談できる	11.8%	7.3%	14.0%	9.2%	8.1%	7.0%	④26.5%	⑤17.9%
自分で解決方法を定めるのを支えてくれる	10.8%	14.6%	10.7%	14.7%	14.9%	19.7%	20.9%	17.2%
適切なアドバイスをくれる	9.2%	10.2%	15.3%	⑤18.8%	③35.1%	②42.3%	15.3%	12.7%
24時間相談できる	10.1%	14.1%	14.0%	12.5%	⑤27.0%	14.1%	18.8%	16.4%
自分と年齢の近い子ども・人に相談できる	③23.6%	③28.8%	⑤21.3%	④19.1%	13.5%	14.1%	4.1%	2.2%
おとなに相談できる	④22.7%	18.5%	12.0%	5.5%	5.4%	9.9%	4.6%	4.5%
大学生くらいのおにいさん・おねえさんに相談できる	6.5%	5.4%	8.0%	9.9%	6.8%	7.0%	10.1%	6.7%
無回答	8.9%	7.3%	9.3%	10.3%	4.1%	1.4%	7.0%	3.7%
家や家庭から近い	7.7%	7.3%	6.0%	3.3%	4.1%	2.8%	5.9%	7.5%
自分のかわりに問題の解決をしてくれる	5.1%	7.3%	5.3%	5.5%	2.7%	4.2%	2.0%	6.7%
その他	3.1%	5.4%	5.3%	5.5%	4.1%	7.0%	2.0%	4.5%
家や学校に近くない	2.7%	3.9%	7.3%	7.4%	5.4%	2.8%	0.8%	0.7%
総数	415	205	150	272	74	71	713	134

『16・17歳調査』における「相談しようと思う相談窓口」の上位5位は、「自分のことを好きと思う」では、『きいたことはヒミツにしてくれる；どんな話でもきいて受け止めてくれる』・『適当なアドバイスをくれる』・『メールで相談できる』・『24時間相談できる』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『きいたことはヒミツにしてくれる』・『どんな話でもきいて受け止めてくれる』・『適当なアドバイスをくれる』・『メールで相談できる』・『直接会って相談できる』の順であった。また、『問題の解決法を教えてくれる』（思わない：19.7%>思う：9.5%）は、「自分のことを好きと思わない」が「自分のことを好きと思う」よりも割合が高かった。

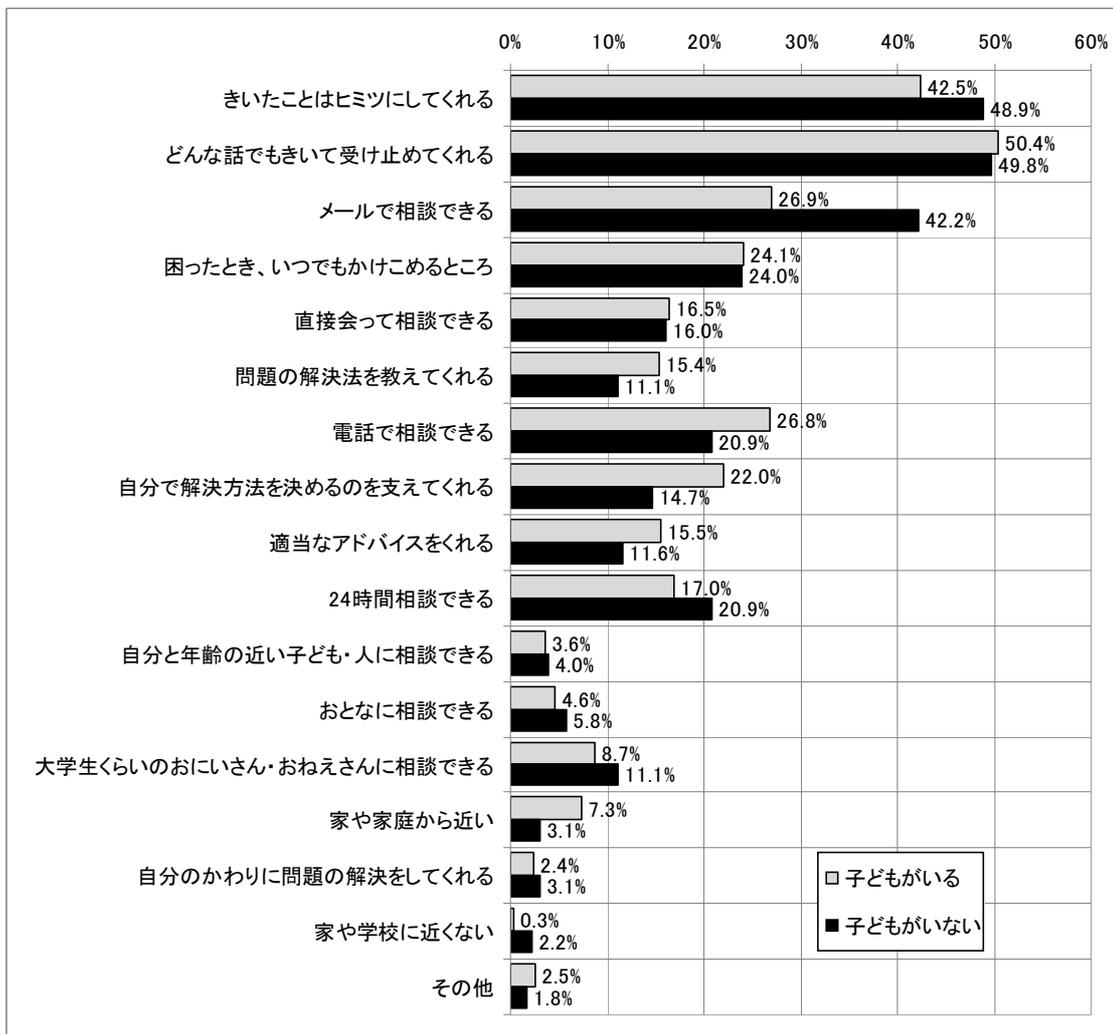
『おとな調査』における「子ども自身が自分から相談すると思う相談窓口」の上位5位は、「自分のことを好きと思う」では、『どんな話でもきいて受け止めてくれる』・『きいたことはヒミツにしてくれる』・『メールで相談できる』・『電話で相談できる』・『困ったとき、いつでもかけこめるところ』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『どんな話でもきいて受け止めてくれる』・『きいたことはヒミツにしてくれる』・『メールで相談できる』・『困ったとき、いつでもかけこめるところ』・『電話で相談できる』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。

◎子どもの有無別（『おとな調査』のみ）

「どのようなところだったら、相談しようと思うか」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった（図表Ⅲ-2-3）。

『おとな調査』における「子ども自身が自分から相談すると思う相談窓口」の上位5位は、「子どもがいる」では、『どんな話でもきいて受け止めてくれる』・『きいたことはヒミツにしてくれる』・『メールで相談できる』・『電話で相談できる』・『困ったとき、いつでもかけこめるところ』の順であった。さらに、「子どもがいない」では、『どんな話でもきいて受け止めてくれる』・『きいたことはヒミツにしてくれる』・『メールで相談できる』・『困ったとき、いつでもかけこめるところ』・『電話で相談できる；24時間相談できる』の順であった。また、『メールで相談できる』（いない：42.2%>いる：26.9%）は、「子どもがいない」が「子どもがいる」より高い割合であった。

図表Ⅲ-2-3 子どもの有無別のどのようなところだったら相談しようと思うか



以上から、自己肯定感の強い回答者が相談しようと思うところとしては、『小学5年調査』では、「きいたことはヒミツにしてくれる」「どんな話でもきいて受け止めてくれる」「自分と年齢の近い子ども・人に相談できる」をあげているものが多く、自己肯定感の弱い回答者も同じ傾向であった。『中学2年調査』では、「きいたことはヒミツにしてくれる」「どんな話でもきいて受け止めてくれる」をあげているものが多く、自己肯定感の弱い回答者も同じ傾向であり、それ以外のところとしては、自己肯定感の弱い回答者では「メールで相談できる」をあげ、自己肯定感の弱い回答者では「問題の解決法を教えてくれる」あげるものが多かった。『16・17歳調査』では、「きいたことはヒミツにしてくれる」「どんな話でもきいて受け止めてくれる」「適切なアドバイスをくれる」をあげているものが多く、自己肯定感の弱い回答者も同じ傾向であった。『おとな調査』では、「どんな話でもきいて受け止めてくれる」「きいたことはヒミツにしてくれる」「メールで相談できる」をあげているものが多く、自己肯定感の弱い回答者も同じ傾向であった。また、『中学2年調査』・『おとな調査』においては、自己肯定感の強い回答者が相談しようと思うところは同様な傾向があった。

よって、自己肯定感の強い回答者の特徴としては、きいたことはヒミツにしてくれる(守秘義務)か、どんな話でもきいて受け止めてくれる(受容的態度)ようなところに相談しようとする傾向がある。

3. 子どものことで悩んだときに相談したい相談窓口・救済機関(おとな調査(N=870) [問13])

「自身があるいはおとなが子どものことについて悩んだり困ったりしたときに、利用したい・できる相談窓口・救済機関」(おとな調査)の17項目について、3つまでの回答で尋ねた。

◎調査票別

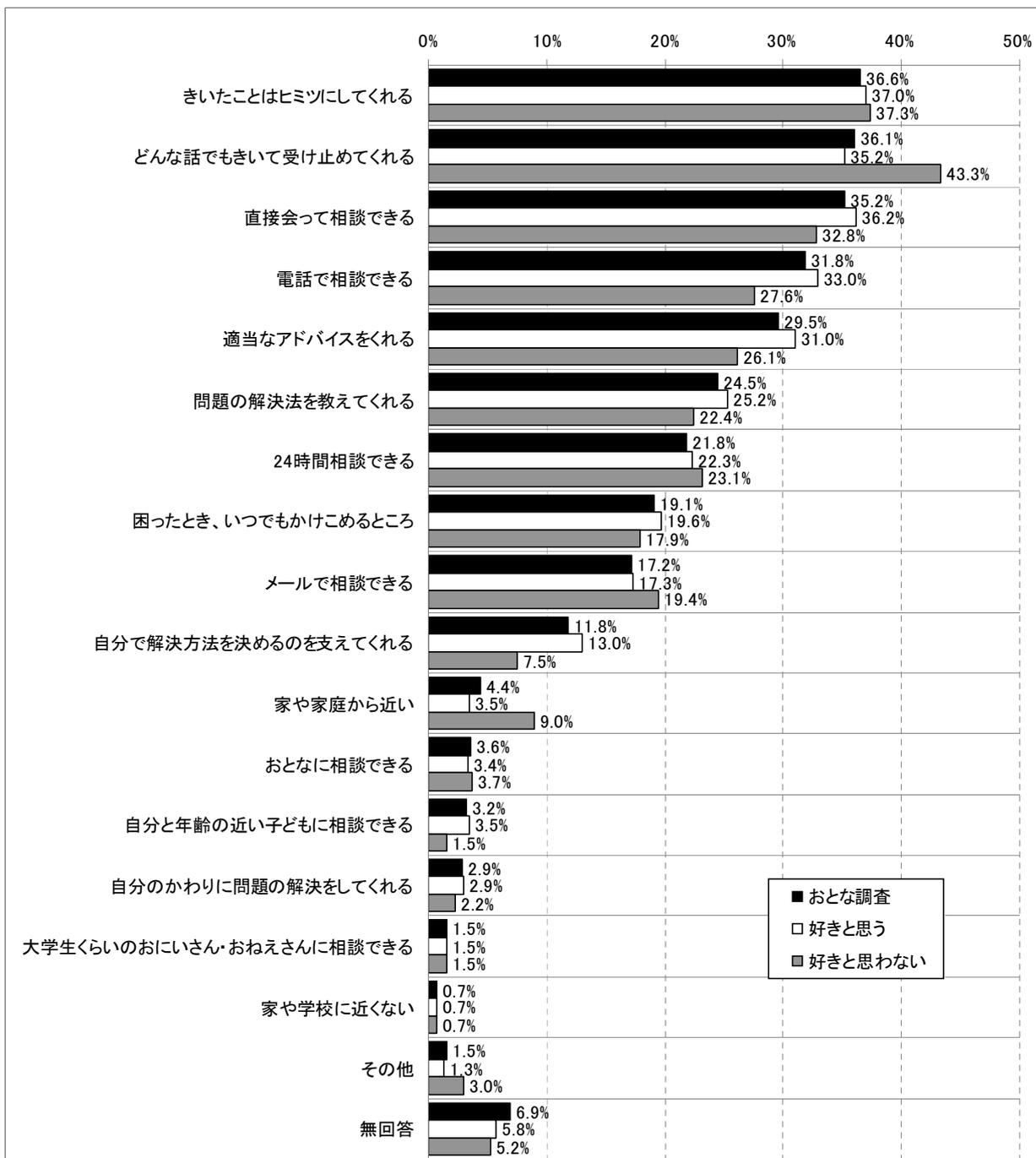
「子どものことで悩んだときに相談したい相談窓口・救済機関」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅲ-3-1)。

『おとな調査』における「子どものことで悩んだときに相談したい相談窓口・救済機関」の上位5位は、『きいたことはヒミツにしてくれる』・『どんな話でもきいて受け止めてくれる』・『直接会って相談できる』・『電話で相談できる』・『適当なアドバイスをくれる』の順であった。

◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

「子どものことで悩んだときに相談したい相談窓口・救済機関」について尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅲ-3-1)。

図表Ⅲ-3-1 調査票・自己肯定感(自分のことが好きだ)別の子どものことで悩んだときに相談したい相談窓口・救済機関



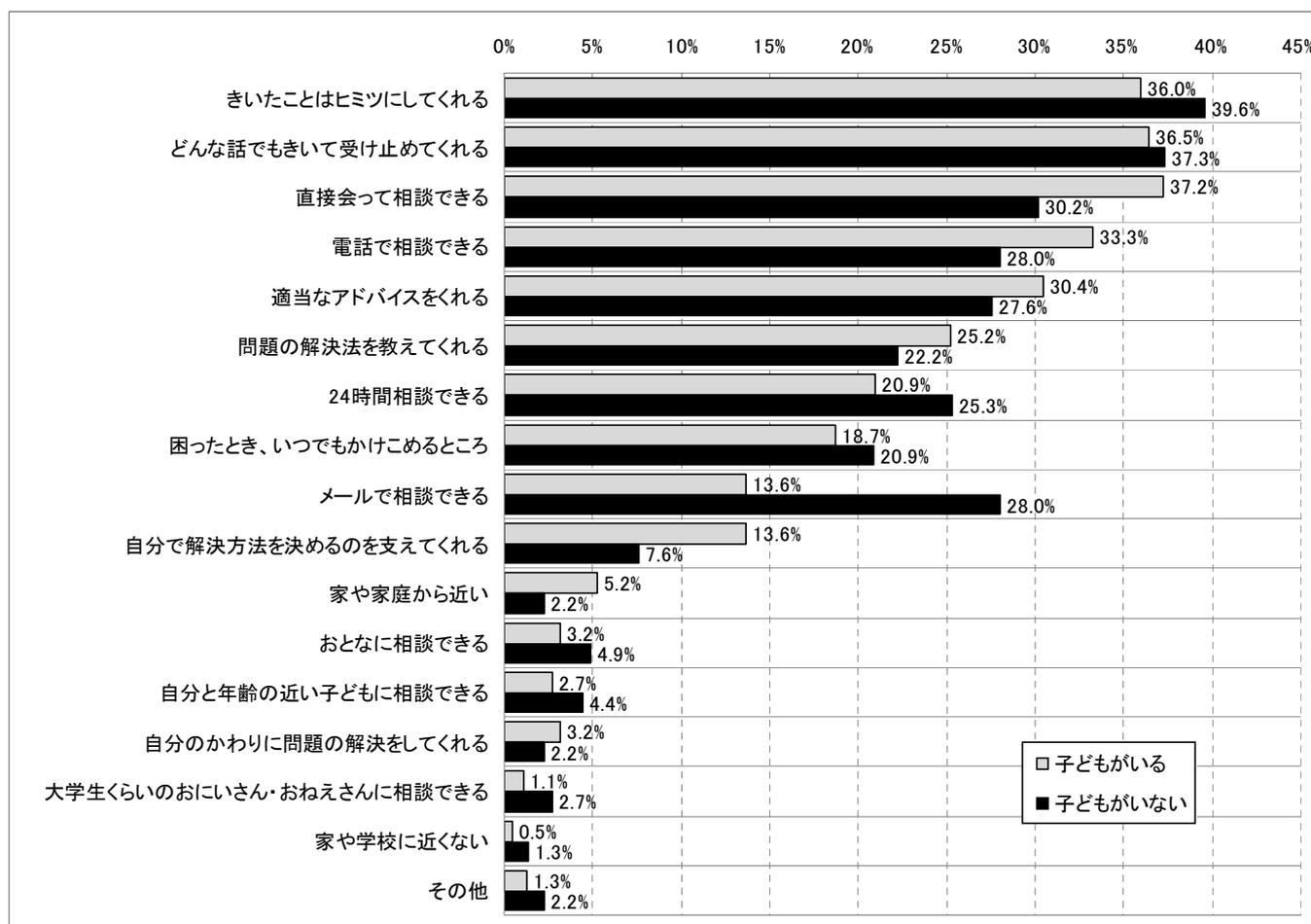
『おとな調査』における「子どものことで悩んだときに相談したい相談窓口・救済機関」の上位5位は、「自分のことを好きと思う」では、『きいたことはヒミツにしてくれる』・『直接会って相談できる』・『どんな話でもきいて受け止めてくれる』・『電話で相談できる』・『適当なアドバイスをくれる』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『どんな話でもきいて受け止めてくれる』・『きいたことはヒミツにしてくれる』・『直接会って相談できる』・『電話で相談できる』・『適当なアドバイスをくれる』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。

◎子どもの有無別(『おとな調査』のみ)

「子どものことで悩んだときに相談したい相談窓口・救済機関」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅲ-3-2)。

『おとな調査』における「子どものことで悩んだときに相談したい相談窓口・救済機関」の上位5位は、「子どもがいる」では、『直接会って相談できる』・『どんな話でもきいて受け止めてくれる』・『直接会って相談できる』・『電話で相談できる』・『適当なアドバイスをくれる』の順であった。さらに、「子どもがいない」では、『直接会って相談できる』・『どんな話でもきいて受け止めてくれる』・『直接会って相談できる』・『電話で相談できる』・『メールで相談できる』・『メールで相談できる』の順であった。また、『メールで相談できる』(いない:28.0%>いる:13.6%)は、「子どもがいない」が「子どもがいる」よりも高い割合であった。

図表Ⅲ-3-2 子どもの有無別の子どものことで悩んだときに相談したい相談窓口・救済機関



以上から、自己肯定感の強い回答者は、「きいたことはヒミツにしてくれる」「どんな話でもきいて受け止めてくれる」「直接会って相談できる」というところで子どものことで悩んだときに相談したいと思っているものが多く、自己肯定感の弱い回答者も同様な傾向があった。

よって、自己肯定感の強い回答者の特徴は、守秘義務や相談者の受容的な態度などのあるところでの相談を希望しているといえよう。